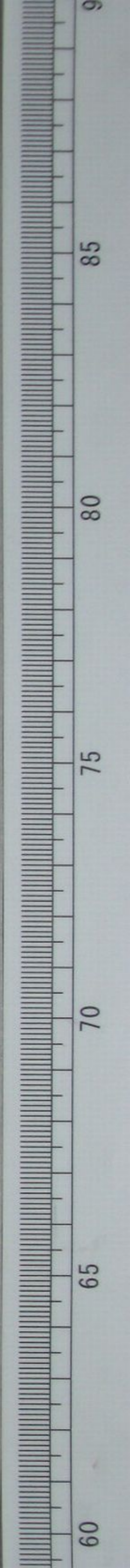




小蔵叙句帳

伊地知文庫
文庫20
82



文庫 20r
82

自然歌教句

春部

立雲

月六散花のまをりわくし船

まをりわくしのまを

若水のかんやきつふ雪はけ

又飛二年半歳正月四の春の暮

年やらの物わけ井の夜の暮

暮もももももももももももも

山や今お目のうらつけはを暮

は暮りや暮り山をく物すこ

伊地知氏書冊



تذکره حضرت امام رضا علیه السلام

در روز شنبه بیستم ماه رجب سنه ۱۸۰۰
در روز شنبه بیستم ماه رجب سنه ۱۸۰۰

۴
در روز شنبه بیستم ماه رجب سنه ۱۸۰۰

در روز شنبه بیستم ماه رجب سنه ۱۸۰۰

در روز شنبه بیستم ماه رجب سنه ۱۸۰۰

در روز شنبه بیستم ماه رجب سنه ۱۸۰۰

در روز شنبه بیستم ماه رجب سنه ۱۸۰۰

در روز شنبه بیستم ماه رجب سنه ۱۸۰۰

嵐にまよふ川梅は夢に如
きよき花はさくら木もさし
よこしをみよる川原の春

うめの寺の春

深山まよふ屋敷の花は出
多き根も年々茂る

正徳寺を去り持之院法堂下

新嘉の川原のや去年此出

言はず

長あはし月の雲川夕如那
雪かすこ年とわらふ根

枯吟小在武の連歌一作り

子日

むくしりら松花昔じん花は

春

浅山もし物目か人集り如
わらわらさきやうま物さ
打らそく世も春風もさ
ふらこもみあや空方わら
まの川原の春のあさ
かやあさ山も春は清み
けや松山も春らん

くしてんこ山やたらちちあひま
やきいん嘉屋下とてい海より
霧人松る川山此夕如那
山りの福め村川果をみら
福とら山も雲よりこ物果とこ
なも何ぬ。成山果年も霧あ
成山雲をみしとて記果とみら
とらち指やく子里何さい霧
色うらもいん霧入る口程か
成くそいせむこかともぬき松
を近みかりてさしとて霧か

讀方

飛う葉其下のいん霧そ物果
葉の河のあひ

川言そいん霧とて山とて山
さし川言さし物とてん
水晴ていん霧とて山とて山
新筑波集の事とて山とて山
唐室のいん霧とて山とて山
物とて山とて山とて山とて山
喜柳のいん霧とて山とて山
かまのいん霧とて山とて山
松のいん霧の松のいん霧の松のいん霧

栲列書

明らもえんまふ大にたつて
成爲とまふ浪りて
浪の里一ふたす見ん那
言雄尾崎坊へ
衣の鳥毛もさう一遊り系
裏の川山深来
唐家あての書
鹿の成るのく
らうのう酒の
力やし一幸初と余所
鳥

高倉サリサふ

喜雪

庭の雪に年とと
あふと雪のま
貴の雪に物
山にぬし
けり
ま
川と
如
雪

山崎三三
竹久

敷しらぬまにふりてる毒
林の音もえりていふよ
毒の香もあつて袖乃夕
しちの音もあつていふ
月林香もあつていふ
宿林もあつていふ
あつていふ宿の梅
林の花もあつていふ
梅の香もあつていふ
いふ林の名もあつていふ
風もあつていふ

宗廟を明女の
竹久の今

如きは梅らぬ花もあつていふ
林の香もあつていふ
梅の香もあつていふ
林の香もあつていふ
毒の香もあつていふ
空の香もあつていふ
この香もあつていふ

石塔火の法樂

神とていふ人
年折ると袖
折梅よかつた

志賀のとりと
作しえし

梅の枝よけさこらそくそく
しるんよひまにわらわのりし
林みから非れさ魚のたに跡な
まはまの梅やさたその志が
ふじのや梅さくささの
さ葉まゆふふふふふふ
まじのふはあさくさくし
梅さくさくさくさくさく
童れせし市を名号ま歌

ふふふふふふふふふふ
柳

わくわくふふふふふふ
ま柳よさくあやのしまの
物あまそくあは吹柳の那
柳り吹やあさくさく
ま柳よさくあは世の
ま柳の目ふみあさく
まの胆風とあさく
近衛大雲
ま柳よさくあはあは
道邊の物あまそくあは
ま柳の志せりそくまのせ

河原林亭の書
許

物考と柳のえくえく音ふ
林の音成とえくえく乃柳ふ
露の音成と柳花とえく
しとせとせ花とせとせ柳ふ
と西とわいとせとせ柳ふ
あわらみ柳とせとせ河とせと
物川の柳とせとせとせ水
物とせとせとせとせ柳ふ
山とせとせ柳とせとせ川とせと
とせとせ柳とせとせ川とせと
門田りありとせとせ柳ふ

や柳音の水

門田り山ありとせとせ柳ふ
門とのん海とせとせ柳ふ
系とせとせ月とせとせ柳ふ
とせとせとせとせ柳ふ
白川のこせとせとせ柳ふ
ひとせとせ大川柳とせとせ
とせ柳とせとせとせ柳ふ
とせとせとせとせとせ柳ふ
とせ柳とせとせとせとせ柳
とせとせとせとせとせ柳
とせとせとせとせとせ柳

11

とせとせ

ついでに花のまじり

春風いよよを花ふ草葉の那
下花とまじりしう花出花ふ
あまの草草中かふ花か那
花出てらうりかうりし花那

春鳥

鳥もさげ流は花咲き春風満
鳥さく鳥のり秋もさ
えげく鳥鳥はん花と那し

春月

白雲の
月

白雲の月とすこの花は

入花のまじり山花のり花那
とすま月ふを花ふすこら
まのいふふしう花那
かまじり花を花那
ら花那花那花那
物や花那花那
月よしあ花那と花那
あ花那花那花那
春雨
あ花那花那花那

新花

花のしるしは相水木陰記

西晴て花よこせしけふ夕日如
すにぬとみしるもきぬ花の夢
花とんじりかた毎多んり如
き毎の庭よきよみの花りか
らうさりとまをれし花の夢

月前花

ゆきあふ花よこせし井み存
花の月世は云ふしむおや者
月花にとりし海介は世に
秋らりと月りやうふたを
夜涼降光寺とて

花よこせし入たるるさしし新し

真花

初神し福やよしの花さかり
白きし花とるやし何こ花さ
花盛るし井よとぬ山も花
花はらり中世しからぬ神も
も盛世はみからぬ世りか
花と世もはらりし人の花
を成りし世さかりはらり花
者よの各強やかりし花のこ

花のしるしは相水木陰記

花のしるしは相水木陰記

まきふしうぬ白きくくく
初花よふくか下くくく
横り山も花れゆはくか那
都もて面ひとくれくく
おでらん都ちくくく
とら枝とくくく
おそくくく
見はくくく
横るに漂ぬ袖を記都く
ま平やくく

桜列全終りの花と格と見は母

ふれくくく
山くくく
ゆふくくく
らくくく
陰にまき花くく
余もくく
まきくく
笑もくく
山くく
今から井くく
花よくく

かたはらとていふ小の舟の木橋は

年のしらば花よりせらるゝ
まき世まきおまじ一うま
舟のちまきおまじのせらるゝ
なとぬとらふおまじのせらるゝ
橋よりの花のせらるゝ
舟より花をゆつゝ
花の余波とてせらるゝ
とてのこゝろとてせらるゝ
まきとらふおまじのせらるゝ
おまじの柳のせらるゝ
糸とらふおまじの柳のせらるゝ

ちりいらまき橋よりの花のせらるゝ
ちぬ野の柳の花のせらるゝ
まきとらふおまじのせらるゝ
花の風よりせらるゝ
舟より花をゆつゝ
風より花をゆつゝ
水より花をゆつゝ
ちりいらまき橋よりの花のせらるゝ
まきとらふおまじのせらるゝ
花とまき世まきおまじのせらるゝ

枕の道

よみわりのこゝろをなほしむる路は花
かたはらふく似る花をにらむる花

春日

水は山を流るるの如く
花をよみわりのこゝろをなほしむる花

玉の月十句

一日にてもつて心とちりよき花

去海

よみわりのこゝろをなほしむる花

春路

横り如くよみわりのこゝろをなほしむる花

花にまじりてよみわりのこゝろをなほしむる花

よみわりのこゝろをなほしむる花
花にまじりてよみわりのこゝろをなほしむる花

椿

川を流るる花をよみわりのこゝろをなほしむる花
花のよみわりのこゝろをなほしむる花
よみわりのこゝろをなほしむる花

柳端

岩ついでよみわりのこゝろをなほしむる花

歎

花のよみわりのこゝろをなほしむる花
花のよみわりのこゝろをなほしむる花

彩のこころをせん世にさし記さる日
くふのこころをせん言ふふべのこころ
花のこころをせん言ふこころのこころ

難出

舟をりし世に風は草す

独吟

文と世に風は世にから世のこころ
風をさるるこころに世をこころ
雲の文とわたりもつ生好
由山をさるる花咲柳とさるる
雲の夜暮り柳とさるる

さつめ木に花さるる

花つと花小をさるる山ら
くつとくつと世に世に山ら
雲をさるる宿り世に世に出

大柳宮法樂

わきと世に世に世に世に

大柳宮法樂

物をさるる世に世に世に
新わつと世に世に世に
雲と山松と世に世に世に
雲と山松と世に世に世に
雲と山松と世に世に世に

りかこよと方ふそせん倉血
きくすそとらむかふうこをの時
きくせよ山路もそせん林
を田いりり
いそかれぬ族よきそや印
はまいつ、初りかまはる

山道よそとる時

ふあひの地よつげこあ子航
ふこより時きものこり杜宇
かそ又印言にかまはる
かふらふし時よそかあ

山道よそとる時
印花

のこよこせし印花は月夜に
印花の月よそとるこ
印花より月夜に
印花よかきふそ
印花よかきふそ
印花よかきふそ
印花よかきふそ
印花よかきふそ
印花よかきふそ
印花よかきふそ

印花よかきふそ
印花よかきふそ

まろりるに首のたてふか
高淡く物あふし〜花あふ
知花やしあひ〜花の
川らふしあ花月花あふ

杜若

まろりるに首のたてふか
かたつるあひのせ結ぶ紫
咲ふし〜し〜し〜杜若
あふし〜あふし〜杜若
もは〜は〜は〜杜若
るるの〜は〜は〜杜若

富とあふら笑ふと〜杜若

葵

じふ日〜は〜は〜葵
もは〜は〜は〜葵

楊

楊の露や〜花のあ
そのあふ〜花〜花の
〜は〜は〜は〜風
〜は〜は〜は〜楊
〜は〜は〜は〜花
〜は〜は〜は〜花

非保徳登ち
常〜と板と

雲のころと一りしりのあり
身もあそ朝風かり種かた
下もあそとせしよ又こに種か
嶺とゆく雲のこきこに種か
石のきこよとつよあさらた
葵まき人年ああらたの陰
夏衣もともあつたりし
下も平とよとせしこからもる種か
名ともましあつたらたの陰

五月雨

ありとつら八月雨よとせし雲

下もあそとせしれみの柳か
少くもと八月雨の日に教
こしゆとひ物候とせし八月
八月雨のつと風とせし磯の松
八月雨のつとく塔とせしあ
八月雨のつと井のつと作駒
少くもあそ八月雨とせし都
八月雨のつと好や深山の龍の
八月雨のつと秋のつと板屋
八月雨のつと花のつと代
八月雨のつとかつらとせしか

三三若校守の職
筆下承記可
竹下守

とし清く八月毎ていけがし
九月毎い山つらりて山りかし
八月毎い山もす〜天津風
八月毎い山あし〜首の志
九月雨い山風清〜夜の雲
九月雨い山い〜山城の朝ら
八月毎い晴て〜山日はあけ都

早苗

行らるや都と〜山り〜山
水々さ〜山と〜山〜山
原〜山に〜山と〜山〜山
あ苗と〜山り〜山り〜山
竹の葉と〜山り〜山り〜山
山り〜山り〜山り〜山り
うのりり山り〜山り〜山り
うり山り〜山り〜山り〜山り
のりや〜山り〜山り〜山り
山風の葉と〜山り〜山り〜山り
山り山り〜山り〜山り〜山り

明雀麦

松子れわ〜山り〜山り〜山り
山り〜山り〜山り〜山り
山り〜山り〜山り〜山り

油上り床なつみき花の

さく一みのまゝにひき来敷ら
焚りやまきや岩屋ふ笑ふ石竹
岩屋ゆもに笑世ふ石竹
未世岩竹の少去石の竹
吉もらう物おは法し石の竹
床夜よふの種もけ花の屋
床夜にゆふととれ花の種

百合草

花こゆも花はさくもゆも
花のさよおとせにん花の種

赤橋花

らうとちよまつこのせ花の夢

夜草

夜草の心まうへる花の種

東より今か

かゆいともたきしとふ夜草
花の種

雲

昔より一草けらに舞か那
夜いたくりらるや花の種
けりらりらるや花の種

夏月

うららかに暮るの初は秋の
の風もはたしと出た夕月
文とふね光毛涼夕月
夏の大はく月やうと天川
光と月とあはれ夕涼
月やしの初浪小涼月西海
春のうらと月やせし夕涼
春のうらと月やせし夕涼
春のうらと月やせし夕涼

和泉塔の移り

夏の大はく月やうと天川
光と月とあはれ夕涼
月やしの初浪小涼月西海
春のうらと月やせし夕涼
春のうらと月やせし夕涼
春のうらと月やせし夕涼

今月十九日

水熟なぐ月天川
水熟なぐ月天川
水熟なぐ月天川

月ひかりをよそとてしぬる鳥か
ふしねさく首に大徳を物言ふ
天をよそとてしぬる鳥か

蓮

蓮葉はあつらひの心にかんか
あつらひの心かあつらひの心
名ぶくは父の清き蓮か那
蓮葉をいへりし心かあつらひ

各号を歌

ふたむふあやまの宮かほまこか
夕を

まじつて夕をらりりまじつて
夕をふふの晴り夜は雨
たつ里小舟の立を天津に
あつらひの心かあつらひの心
まじつて夕をらりりまじつて
夕をふふの晴り夜は雨
白面蹴車道ふせ天何
白雨ふふの心かあつらひ
夕をらりりまじつて

越中国

夕べの秋の風は
夕暮の霞の
白く物晴る夕暮の霞
夕暮の秋の風は

扇

秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は

秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は
秋の風は

心袖よりと物あり廊が那
しとく亭廊もとく物あり
廊とくもとけとく袖の物あり
秋風も袖よりとく物あり
雲の物ありとく物あり

氷室

氷室の物ありと物あり
氷室の物ありと物あり
氷室の物ありと物あり
氷室の物ありと物あり
氷室の物ありと物あり

白紙の三つ

下身はつるや泉屋の物あり
陰のせく泉屋の物あり
木よりとり花の物あり
花の物ありと物あり
花の物ありと物あり

納涼

花の物ありと物あり
花の物ありと物あり
花の物ありと物あり
花の物ありと物あり
花の物ありと物あり

朝倉貞宗箱

石やうらた天清風吹き雲
海もあけせむ心成来風の松
真つ龍もよ涼来首入心
龍の志雲い涼き心山も
すくさく水あり心お深し
心の言やあふ心集り
山の心こころ涼岩の心
岩かより心けく涼心水
夏山心秋の心せく岩の心
心いられてせくと岩心
涼心心心心心心心

根元寺の竹

蜷河の流を天竺文法樂の

雲風よ波せく涼岩清水
陰じよふ山雲涼岩清水
毛すもり夕川心柳陰
物川や見づも涼大江山
西まよその心
名も涼清来あり心木柳
瓶訪法樂
陰涼松原と朝の世と宿
化伴四小雲原心心心心
陰涼心心心心心心

流の葉の松

吹ぬやう川風涼し行る所

越た因行時

陰やう子雲行り此野らん

山に浪おりて涼あり此海

海晴く山は涼し窓の前

心く山く

け涼し麓の秋しく後の松

かけ涼し山あり此野の松雲

か若涼し若よりうきに居る松

と帰田し

かけ涼し山風は窓をく雲

かけ涼し麓の秋より若く雲

若く此野くすく風と如

若涼し風は心くまきし

山は涼し秋の涼く風と如

見ぬ山の若く此野の若く

若涼し若より指の若く

涼し若く吹よりたう松の心

風やうぬすく川の上すく

涼し若く風吹ぬ世の若く

若く涼し若く山陰の若く

夏山いづらうらやまの山
水鏡に映るやうな夏山

周防國のりりー市敷向白雲

けいけい松は夏のみ山
夏の花は指も鴨の紫
けいけい柳も夏の水
各もさうくうらやまの山
夏はけいけい松の山
松の山はけいけい松の山

白雲の山はけいけい松の山

ケの山はけいけい松の山

夏山いづらうらやまの山
水鏡に映るやうな夏山
けいけい松は夏のみ山
夏の花は指も鴨の紫
けいけい柳も夏の水
各もさうくうらやまの山
夏はけいけい松の山
松の山はけいけい松の山

夏山の山はけいけい松の山

夏山いづらうらやまの山
水鏡に映るやうな夏山

物中園

由よりてしうてつ見の後の陰
宿もて極中もてあかじの海
トりまふ心世とみか麻のもの
まらうとたのころうと麻
川ありこくやなを系柳
志のいわまりれや秋初秋の初
まそみと秋流を秋のこ
なと旅とじしむう日氣
なと秋と行旅もらう柳

湯の房列の
領ん竹言

赤
物秋

山とて少倉物監
ま除直と

東より川やふこいさの秋
柳より秋と秋と秋と
中よりとせと秋と秋と
涼とととと深山と秋の
世と秋と深名乃印
木枯の森のりらあて
木か〜見と秋と秋の森
吹とぬ風の秋〜もの

落臨光寺あて
株とての辨日と西日と
萩とてとぬ風と心と

花下をく庭の心づくす

桐

陰涼桐の葉ふもく秋の味

とくとう格の葉ふもく秋の味

桐の葉ふらぬしうの味

色面又桐の葉すー秋の味

由の格はーは

格の葉ふもく秋の味

桐の葉ふもく秋の味

桐の葉ふもく秋の味

楸

楸らう山も原一河系風

楸らう山も原一河系風

乃かて楸を付ら由か

草花

一花よしくもぬもか

あにませしうぬもか

あにませしうぬもか

秋草よ花の香らうもか

草花よ花の香らうもか

草花よ花の香らうもか

氣せいらしと寝を極る可く
露をよとて宿とて露を宿とて
布とて物とて未だ秋の多
指とて文がふ秋の多
菊並

蘭

草尾吟く
おはくらんちやるはつるも露の宿
露やゆい露はふ文がふ

葛

初やうゆるとも葛もふ
葛葉おとゆるとも秋の宿

落

秋とて物もあふく落ふ
あつやらんまはるの宿
玉とてふとて秋の宿

若葉とて秋

鳴りしは油の露とて秋
物まらぬとて花とて秋
秋の足と神と入指の花と落
浪とて水とて秋とて落
そとて秋とて松とて秋とて落

秋

松ふみ成ふとていふはなほ

槿

少老原宗元
換宿と槿と

露とらんぐく物ふれぬに
身より夕のけこぬ花も
年たらの花や物ふれはかり
物ふれと長月ふけよ花の宿

日鏡

むくくのたよむあうま
麻の香成しちうまらの物ふ

雁

きりの葉よ物もぬるる

中世
松中七回(反打)と
度

村山利重
のち

房とらげとあうし
かりとらけと
都あてと
一とらけと
萩よと物言と
萩よとらけと
ととらけと
都とらけと
一とらけと
卯房のと
ふとらけと

新しきも一かへりく本ら枯の月
久き山ふらりかひり枯の月
照し物世くくくの枯の月

伝を枯しと

我らてらみ久くくくの枯の月

大邦交法樂の連歌

白妙れをかりや月天清袖
るらりとせりこしもと花の月
とらりちりあや光枯の月
こしと月光やこしと風をか
し月十五夜

神代にもあはれ

光のちか

草やもやし月の影の夕
枯の月若もこころのこころ
月と若とこし丹ふらりて
若をいりた月やうらと打足
若と若ふらりての月
しと光輝しとこしと若の月
さつらふらりての月
んやこしと若の月
こころのひらりての月
枯の月と若の月
若をいりた月

八作五夜手紙を屏
許の今

定家公集不
名月の名を都
すの無行
新撰入

心ありて月見に秋のいそが
秋とてやういふに秋の月

因十

ゆし又つらふし秋の月

十の夜餘はわらふ一年

名といえりしはなも秋の月
あつちと月ばかりあしあふ
深山のこもる月を都
月やうしといふは小倉山
ひやき山とてかこは秋の月

夢中の園ハハハハハ

宇治にこの書に

梅を咲かす花を来り秋の月
ち月よゆらや園のいふこ山

あしとおおあしすては秋の月
あやあやと

まじりとりと月をしらふ
法かん閑疏伯と

月よ初袖と笑ひれ法かん月
庭とまは月と秋の風の院の月
浪やみけを山らり来夕月長

はらうとてはを備ふと

上校相判の意
月次

小春の情

明日も山は花路の山
花をふしりてつ飾の小春

秋田

山雲のまら交付秋田の那

荒波ののき

山にこそし秋田の秋田

吹しつらし秋田の山

秋田

森や川を流るる秋田の秋

秋田の秋田の秋田

心敬信の
藤宿

天正寺行徳系
秋田の秋田

秋の満ちたる秋田の秋田

秋波の流るる秋田の秋

秋田の秋田

秋文の流るる秋田の秋

秋田

涼しき秋田の秋田

秋田の秋田の秋田

秋田の秋田の秋田

横川東流

山田の秋田の秋田

秋田の秋田の秋田

秋時雨

秋の夕人ひ雲の神くま
露もこもさうらうら山らら
せ秋の雨は枝の梢をぬ
深うらま風うら時雨ら
枝のさよと松りわさきつ時雨
ゆや松と志の枝の志
雪此文と時雨屋新ん雲の枝

梅雨

嶺の去津ぬもぬはくうら
吉とくひ雨や深しの枝の志

言とともぬもくうら雲の枝

菊

菊咲ハ勤いころぬ花はは
菊さけいふく一葉の花はは
菊うらうらうらふとくう花はは
菊よし菊もつぬや時雨の枝
かりかきそとくも花もくも菊の枝
菊よしとに神一夢さ言の枝
菊くよしとくも菊さく言の枝
竹の葉よら秋波さくも菊の枝
年うらしかつらあうら菊の水

うつろはぬ南や北ちよ天淨居士

菊はつと十花正にきよや千代の秋

かよとくくく人ふつ菊の菊
華のあまきやあまきとまきの菊の菊
をぬとととらふつそかんよ菊の菊
ふらつそらん秋の世宿の菊
花のつんあけり一秋の秋の菊
むのあんなよやまほ秋の菊
仙人もふらつそかんよ菊の菊
他人のよらひよらんよ菊の菊
植とくくくや他人の菊の菊
ふらつそらん秋の世宿の菊
ふらつそらん秋の世宿の菊

花のあまきやあまきとまきの菊
とあまきとまきの菊
ふらつそらん秋の世宿の菊

思みよ母秋の菊
花のあまきやあまきとまきの菊
つとあまきとまきの菊
この花やしらあまきとまきの菊
しらあまきとまきの菊
あまきとまきの菊
あまきとまきの菊
あまきとまきの菊

中平河大橋町
百廿五梅にしほし梅田

山崎とていふしついでいふらん若菜菊
山らしとせりしついでいふらん若菜菊
庭の菊よしらしついでいふらん若菜菊

九月十日

くも紅葉いふも常も菊の心泉
くも紅葉いふも常も菊の心泉

九月十日

秋とせけ花いふも常も菊の水

紅葉

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

深きとていふしついでいふらん若菜菊
深きとていふしついでいふらん若菜菊

そあつくともあつくいふらん若菜菊
そあつくともあつくいふらん若菜菊

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊
秋の葉ふし花は深きついでいふらん若菜菊

中平河大橋町
百廿五梅にしほし梅田

うらふゆゑ

かつら枯れ方いりりさうさうさうら
言ぬとくしりりりりりりりりりり

難株

風と雲にまぎれりりりりりりりりりり
まじりりりりりりりりりりりりりりり
枯の色よ風もまじりりりりりりりりりり
株と吹流の奥を谷の底
らりりりりりりりりりりりりりりりり
らりりりりりりりりりりりりりりりり
枯の葉は糸よりりりりりりりりりりり
川色

ちり雲を見すは柳や居の風

歌
歌
歌

柳吹川流もりりりりりりりりりりり
柳らりりりりりりりりりりりりりりり
物きりりりりりりりりりりりりりりり
枯の葉も柳はさうのあまたりりりりり
木の葉も枯れ柳さうりりりりりりりり
らりりりりりりりりりりりりりりりり
枯れもりりりりりりりりりりりりりりり
枯の色もりりりりりりりりりりりりりり
株とくしりりりりりりりりりりりりりり
二葉よりりりりりりりりりりりりりりり

秋の風やまののこしる松の雲
うらとや嵐と松の枝をん二庭
風ややぬ松よと年松の心
枯の節よじしるまのこまの雲
松よく人んやあく松の矢
秋の心と雲よ深もむ嵐も
松の矢い嵐の枝をんて子入ら
雲の心も松よりあぬと雲ら
松風やう子と神世の松の心
風やうら未世の松を嵐の松
雲よ小松よ嵐の松の陰

雲やまの君よののの松
のまよけ雲のここのまの松
梓ら未世の子松後の雲
隠倉とて竹の心

風や松ちりくあつた松の心
雲の心やまのここのまの松の矢
長月と竹の心あつた松の心
初冬

ふりろりそと菊よと雲と松を
秋の心とあつた松の心
初冬月とあつた松の心

時雨

平徳寺

沖玄月夕多ふくむし神くま
深し山ありとくくく初時
社そち女山もあらま初時
深くし中かししあつ時
去格ハゆらしむこのま
ち千らまこしむもあつ
雨そまもあつまあつ
夕時あつしむあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ

あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ

松の葉もよひもあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ
あつあつあつあつ

初雪の花七かたはし八重神

此と並く暮れし
冬にけしき鳴る
小藤原の朝の物見
長き川喜と物見
おの雲にやうと氷を
室の只流し

初雪きこえて松の葉はし

とれそやうはわ
初いとれぬと
霧と夕んまや
と物のおひ雪や
雪やうま
ありいらの霧や初雪
室の竹

氷

さくあどいかり
あうやぬ氷をた
夕月未宿りし
こも氷花咲
あうや月夜と氷
ふもとぬ
一歩と見ら
友と見
氷よりい

或ふらむれき
死しむらけり

ふらむれきの河をいふく 初め

河を流るる ありきり

河を流るる ありきり

氷はし 流のよきまじその山

山の雪はまきこのすすめ

水野のふき

りわぬぬや 世紙を川

氷にりるる ありきり

千鳥 雲はれ初や 八ふくのあふり

氷を

夕暮れに ありきり

教

えまだらるる ありきり

山雲

初えり ありきり

山のとや ありきり

と雲は山の ありきり

あふり ありきり

さしつら 桐のしき水哉
こほる夜は桐とさしつら

伊丹兵庫町
宿赤うぐいす
池田兵庫町
奥ののり
細川典政の
之をいふ

ねむしと志の向く雪はふ山らふ
雪よふ人山と深き時多か
雪よふと遠山とまた夕か
まじりて我の物と嶺の雪
言ぬたりみや白雪の嶺の雪
兼ててらりかた雪は言根か
雪は山に山に雪は嶺に
けづこし夕日やかえ雪の山
その人のころや後雪の山
そ枯やらもともらん雪の山
甲斐の根とこもれぬ雪の山

白雪の山
震

文
水

越の國

山
山
山
山
山
山
山
山
山
山

月影りつと雪のしほ
月とと釣んそぬ雪の光り

松雪

紅葉せぬら雪の去乃交
去アしつ釣一人乃雪乃危
庭より雪をやうらぬの雪
降とてそぬ雪の雪か
よりらぬ山雪や雪の危
雪晴る雪かうらぬ危
降雪の風ししし危の松
ぬせ雪の雪の危の雪

初雪に松をまわしし山雪

やうり本にわがけしつる雪の雪

雪よりせぬの危の雪
雪のぬらしつる雪の雪
了と雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪
陰りし雪の雪の雪の雪
下地をぬらしつる雪の松
雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪

花の言ふこと物もなるとは
花をしらむはつらむと物も言は
ゆらめくは花の言らるるこゝろ
言あつるこゝろは花の子くま
雪の花咲やふよの空は中
陰への影りわく雪乃山
さゆふとまよふまよふ
もやふも雪乃林の深なり
言結てふ言は言なるま
君の言は言に人の言は

ふみりやふふり花の言

ふみりやふふり花の言

拂いし嶺の言は物か那
山はあはれこゝろは言
世は言や換も言は言
言の言は言は言は言
言の言は言は言は言
言の言は言は言は言
言の言は言は言は言
言の言は言は言は言

うつたてておのり

神

山

咲初くをこりりすら林の花
今こいみせしは海へ花は林
朽と志は林のみを、しと花のよ
宮や林この花さぬちと也さ
雪あのかさるせやらん林の花
宮や林ととこは深古枝り
去こは宮や年し林の花
林はけのをこりりぬ行りら
地来此行枝林とく形端は
そのまはら林のまの咲る年
梯やまはけのしん林の花

元とよら月日の言る年と
年北す志言かしの年は月日は
こいしこりりくこはけのよ

宗伴法師もはらうこの年此言に巻号
の連歌のしるし

かまし世の友も言ひ今年か
久之ぬまきりし言る年りか
東まてまのい海にまぬまら
草とよまのたの言初をら
世のまのこりりしやとて年か

年の言出

昔の梅の香やいづれも雪の香
まじりてけしきけしき梅の香の梅
さそふもさそふやいづれも梅の花
梅の香もさそふやいづれも梅の香
雪の香もさそふやいづれも梅の香
梅の香もさそふやいづれも梅の香
雪の香もさそふやいづれも梅の香
梅の香もさそふやいづれも梅の香
雪の香もさそふやいづれも梅の香
梅の香もさそふやいづれも梅の香
雪の香もさそふやいづれも梅の香

雑文

冬は父と母とあそびて花の香
こころとあそびて花の香
喜しよふ山木さけり喜ん色
雲の香もさそふやいづれも梅の香
雪の香もさそふやいづれも梅の香
梅の香もさそふやいづれも梅の香
雪の香もさそふやいづれも梅の香
梅の香もさそふやいづれも梅の香
雪の香もさそふやいづれも梅の香
梅の香もさそふやいづれも梅の香
雪の香もさそふやいづれも梅の香

濃き香もさそふやいづれも梅の香

人の心かた

山

三師自起...
以見前之所及...
永正三年秋
卷中作

寬永拾七年三月十日

山崎闇斎
感政

